



このプレスリリースはギブン・イメージング社
2009年5月20日の発表を翻訳したものです。

Press Release

報道関係各位

2009年5月26日

PillCam[®] カプセル内視鏡の検査数が全世界で 100 万症例に到達！ 消化管疾患の発見に欠かせない患者様にやさしい診断ツールとして定着

ギブン・イメージング社 (NASDAQ: GIVN、イスラエル・ヨクナム) は、消化管疾患の診断のため、これまでに無いまったく新しいカプセル内視鏡検査方法を 2001 年に世界で初めて発表して以来、PillCam[®] カプセル内視鏡の臨床検査数が 100 万症例に達したと発表しました。患者様にやさしい PillCam[®] SB は、原因不明の消化管出血 (OGIB)、クローン病、セリアック病、腫瘍、その他さまざまな小腸疾患を小腸全域で診断できるゴールド・スタンダードに一気に躍り出ました。PillCam[®] カプセル内視鏡が登場するまでは、小腸全域を検査することは、非常に困難でした。

「PillCam[®] SB カプセル内視鏡は、侵襲的な外科的手術とは異なり、患者様を拘束することなくほとんどの消化管領域を画像化し、より早い確定診断と早期治療に役立つであろうことは、当初から分かっていました」と、マウント・サイナイ医療センター (ニューヨーク) の Blair S. Lewis 医師は述べています。また、「当初は原因不明の消化管出血を対象として臨床使用されていましたが、今では様々な小腸疾患の診断に PillCam[®] SB が使用されており、1,000 件を超える学術論文などのエビデンスによってその有用性が支持されています。こうした多くの研究成果を通して、私たち医師は、小腸疾患をより正確に理解できるようになると同時に、100 万人を超える患者様が恩恵を受けています」

約 10 年前に、消化器内視鏡に世界初のイノベーションをもたらした PillCam[®] カプセル内視鏡は、患者様が簡単に嚥下できるビタミン剤ほどのカメラ内臓のカプセルを通して小腸全域を撮像できるツールを医師に提供しました。他の消化管診断方法とは違い、PillCam[®] カプセル内視鏡は患者様に鎮静剤を使用する必要がなく、また患者様は検査中であっても普段通りの日常生活を送ることができます。ギブン・イメージング社は、新製品開発と広範な臨床研究を通じて、PillCam[®] カプセル内視鏡の適応範囲の拡大に努めており、2004 年には PillCam[®] ESO (食道用カプセル内視鏡) を、2006 年には Agile[™] Patency カプセル (消化管通過性確認用カプセル)、および PillCam[®] COLON (大腸用カプセル内視鏡) を発表し (※PillCam[®] COLON カプセルは米国での販売が未認可)、2008 年には Bravo[®] pH モニタリングシステムのビジネスを買収しました。

2001 年に PillCam[®] カプセル内視鏡を世界に向けて発表して以来、ギブン・イメージング社は以下のような成果を上げています。

- PillCam[®] カプセル内視鏡は世界 70 カ国以上で使用されています。
- PillCam[®] プラットフォームは世界 5,000 カ所以上の医療施設に導入されています。
- PillCam[®] SB は世界で約 5 億 8,000 万人の方の保険をカバーしています。
- 食道用カプセル内視鏡 PillCam[®] ESO、大腸用カプセル内視鏡 PillCam[®] COLON を発表 (※PillCam[®] COLON カプセルは米国での販売が未認可)

- 卓越した視覚化技術と最高の効率性をもたらすワークフローを実現するため、絶えずイノベーションを創出して製品を進化させています。
- 数多くの顧客に向けた教育セミナーを毎年開催しています。
- 消化管領域で米国第3位の売上実績を誇っています。
- 収益性と強力な財務体質を維持しています。

「私の重篤な小腸疾患を発見できたのも担当医に PillCam® カプセル内視鏡検査を実施していただいたおかげです。それまでは、あらゆる検査を受けても診断結果は陰性でした」と、Lewis 医師が担当する49歳の患者、Michael Polimeni氏は述べています。また、「それまで何年もの間、いくつもの消化管検査を受けてきた私のような患者にとって、PillCam® カプセル内視鏡は非常にうれしい驚きです。実に簡単に検査ができるのですから」とも述べています。

PillCam® SB カプセル内視鏡は、サイズが11 mm×26 mm、重さは4g以下です。撮像カメラと光源を内蔵し、毎秒2枚の画像を撮影・転送し、8時間の検査で5万枚以上もの画像を撮影します。

「当社が数多くの患者様の生命に多少なりとも影響をもたらしていることを大変うれしく思っています。今後も引き続き、革新的で患者様にやさしい診断ツールを提供してまいります」と、ギブン・イメージング社の社長兼 CEO のホミ・シャミールは述べています。また、「当社の将来ビジョンは、業界をリードする最先端ソフトウェア技術とイメージング技術を駆使して、消化管疾患の早期発見を可能にする製品を開発し、最終的には患者様の命を救い、患者様のケアを改善することです」と述べています。

ギブン・イメージング社は、医療従事者と患者様の双方にとって診断に係るところで絶えずイノベーションをもたらして改善しています。5月15日～20日に開催される米国消化器内視鏡看護師学会(SGNA)の年次総会と5月31日～6月3日に開催される米国消化器病週間では、ギブン・イメージング社からいくつもの検査方法上の改善案が発表される予定です。



<写真> 100万人の患者様に使用されている PillCam®
 上: PillCam® ESO 2 (食道用)
 下: PillCam® SB 2 (小腸用)

注) 日本では小腸用カプセル内視鏡のみが認可されております。

ギブン・イメージング社について

ギブン・イメージング社は、2001 年から、PillCam[®]プラットフォームのコンセプトを基盤とした革新的で患者様に優しい先進的な消化管診断ツールを提供しています。PillCam[®] SB は小腸、PillCam[®] ESO は食道、PillCam[®] COLON は大腸の自然のままの消化管画像を提供します。PillCam[®] カプセル内視鏡は、患者様が嚥下するカプセル型の小型ビデオカメラです。ギブン・イメージング社では、他にもカプセル型製品を販売しております。PillCam[®]カプセル内視鏡が消化管を通過できるかどうか、開通性をみるための AGILE、胃食道逆流症(GERD)の pH 検査に使用する医療機器としては、カテーテルを使用しない唯一のワイヤレス 48 時間 pH 検査システムの Bravo[®]があります。ギブン・イメージング社の製品は、最先端のワイヤレス通信技術とソフトウェアを使用することにより、より正確な消化管疾患の診断を可能とし、患者様には、より適切な治療を実現することができます。全てのギブン・イメージング社の製品は低侵襲性で、かつ無拘束であり、患者様は検査中も日常生活を送ることが可能です。ギブン・イメージング社の本社、工場、研究開発施設は、イスラエルのヨクナムにあり、アメリカ、ドイツ、フランス、日本、オーストラリア、シンガポールに子会社があります。さらに詳しい情報が知りたい方はこちらをご覧ください。<http://www.givenimaging.com>.

日本法人 ギブン・イメージング株式会社について

ギブン・イメージング株式会社(東京都千代田区、社長: 笈川義徳)は、世界で初めてカプセル内視鏡を開発し、現在世界のカプセル内視鏡市場における圧倒的なシェアと豊富な経験を持つギブン・イメージング社(Given Imaging Ltd. 2001 年 NASDAQ 上場)の日本法人であり、日本におけるカプセル内視鏡の製造販売会社です。

<ホームページ>

<http://www.givenimaging.co.jp>

注) 日本では、PillCam[®] SB カプセル内視鏡(小腸用)のみ、承認、販売されています。また国により適応が異なります。米国では大腸用の PillCam[®] COLON は認可されていません。